

悲しみの後に来るもの

歳をとれば

浪のように押し寄せる喪失感

その一つ一つが痛みだが

「失う」と言うことは「在った」こと

傷跡の痛みに残る存在の証明

それが僕の存在の輪郭であり

僕の意識の根であり

僕の行動なのだとすれば

指の一本一本をもがれ

手足を奪われ

意識の一つ一つをもぎ取られ

何も無くなるまで喪失して

初めて存在証明が発行されることになる

僕の輪郭の核が見えて来るのだ

一人一人の友人

一つ一つの思い出が

細胞のように僕を作っていた

それを失うことはその確かな喪失感であり

自分の確かな存在感なのだ

失うものにしっかりと目を見開き

失ったものを見つめ直す地平に

幻でない自分が見えて来る

(2011.5.22、小野寺君一周忌に)